

効率的な集客方法と付加価値のもたらす影響

2年1組 荒井 清音 2年2組 井関しずく
2年2組 西川ほのか
指導者 木戸 雅俊

1 課題設定の理由

近年、少子高齢化や過疎化、さらにコロナ渦の影響を受けて各地域の祭りが存亡の危機に陥ってしまっている。それは愛媛県の伝統的な祭りの1つである和霊大祭やうわじま牛鬼祭りも例外ではない。そこで、祭りの継承のため減少している参加者を増やすために集客方法を見直すことで伝統的な祭りの継承につながっていくのではないかと考え、本研究を行った。

2 仮説

私たちは以下の2つの仮説を立て、検証した。

- (1) 宣伝方法が現代にそぐわないのではないか。
- (2) 開催地ならではの体験や希少性のあるものに人々が興味をもつのではないか。

3 研究の方法

- (1) 和霊大祭で知られる和霊神社のご協力を得て、宣伝方法などについて質問する。
- (2) Teamsの「宇東 R5_全生徒・全職員◆調査・アンケート」というチャンネルでメンションなし、メンションあり、メンションあり+特典付きでアンケートを取り、アンケートの回答数を比較する。

4 結果と考察

仮説(1)を検証するため研究の方法(1)に記載した通り、和霊神社の宮司の方に以下の質問をし回答を得た。

- ①どのような宣伝を行っているのか。
→伝統的な祭りで毎年ある程度の賑わいがあるので特に行っていない。
- ②宣伝の際に気を付けていることは何か。
→政教分離を守ること。
- ③和霊大祭にはどのくらいの人に関わっているのか。
→具体的な数はわからないが多くの団体に関わっている。
→神輿1台に80人以上は関わっている。
→若手がいないのと協力者を得るのが大変。

①～③までの結果から、少しでも宣伝をしていけば祭りに参加する人は増加すると考えられる。仮説(2)を検証するためのアンケートでは研究の方法(2)の方法でアンケートを実施し、3パターンの条件下を仮定して集計を行った(図1)。

1. メンションなし→祭りの存在を知っている地元の人が祭りに参加
2. メンションあり→宣伝や広告で祭りの存在を知った宇和島出身でない人が祭りに参加
3. 特典付き→ほかの祭りでは味わえない体験ができる祭りへの参加(宣伝で知った人)

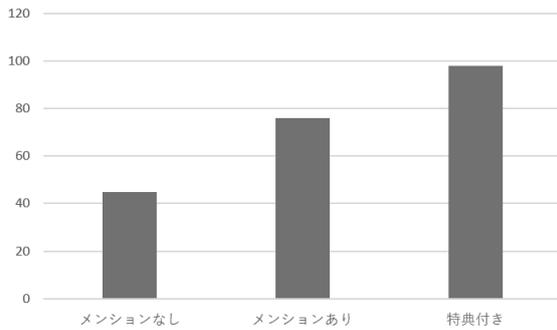


図1 アンケートの収集方法の違いによる回答数の違い

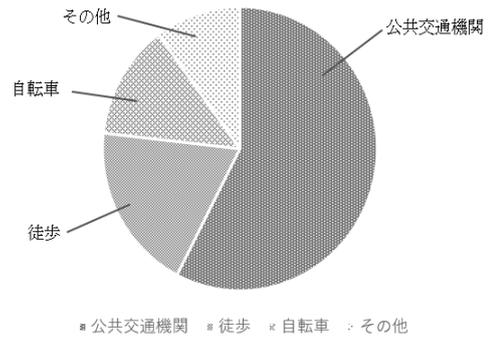


図2 祭りに行くときの交通手段

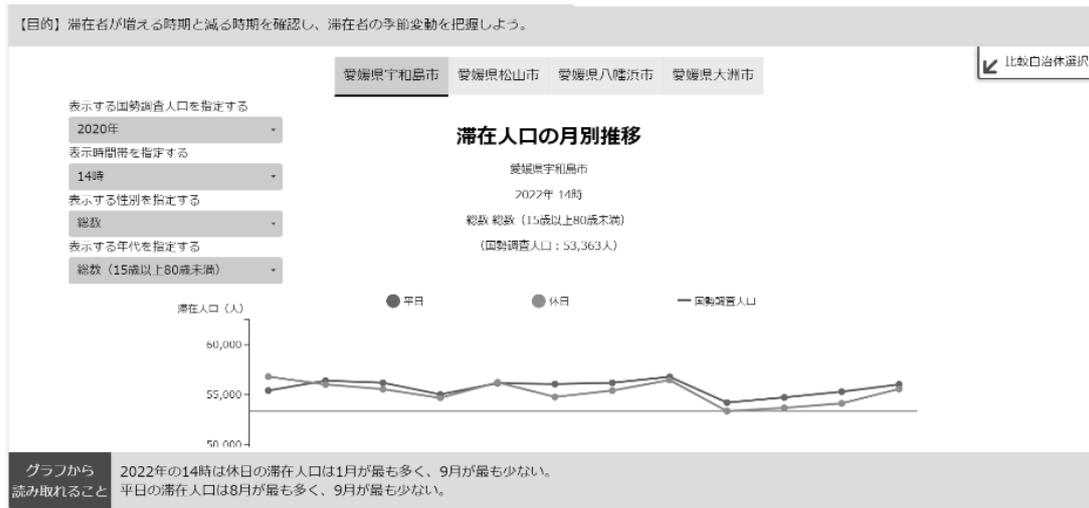


図3 宇和島市滞在人口の月別推移 (RESAS より)

実験結果によると、特典付きのアンケートが最も回答率が高かったことから、付加価値を付けた集客方法を試すことで祭りの客が増えるのではないかと考えられる。また、宇和島市に滞在する人が最も多いのは8月であり(図3)、祭りが盛り上がることで宇和島市を盛り上げることに繋がると考えた。

今回はアンケートに置き換えた実験であったため、祭りの集客になるとどんな付加価値があればよいのかについて調べなければならない。

5 まとめと今後の課題

和霊大祭により多くの人立ち寄ってくれるためには、多くの人々の興味を引くことのできるような新しいものを取り入れることがよいのではないかと考えた。しかし、本研究はアンケートに置き換えることで実施しているため、付加価値が曖昧な点、条件の仮定の仕方が不正確な点、世代によって興味をもつものが違う点などが今後の課題である。実際にやってみてどのような集客方法や宣伝をしていくべきなのか、私たち学生にできることは限られているため、協力団体市を探し、検討する必要がある。

参考文献

- ・ 明治学院大学 内野裕子『地域住民が開催するイベントとその集客効果』
http://www1.meijigakuin.ac.jp/~hatsemi/hattori%20seminar%202005/_notes/obog%20&%20soturon/utino.pdf
- ・ 井口暁 過疎地域における祭りの終了と再生のメカニズム
--三重県神川町の「桜祭り」から「桜覧」への転換に注目して--
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/246416/1/kjs_027_019.pdf